

# SDGs BOOKLET

— SDGs達成に向けた取り組み —



# 持続可能な開発目標SDGsとは

2015年の国連サミットにおいて全会一致で採択された、  
2030年までに世界が目指すべき目標で、17のゴールとその下の169のターゲットで構成されています。  
17のゴールは国連や各国政府だけでは達成は不可能であり、これら社会課題の解決には企業の参画が不可欠です。

## SDGs17のゴール

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ゴール1～6 …… 貧困や格差解消等の基礎的目標。ジェンダー平等は建設業でも課題。  
 ゴール7～12 …… エネルギー・資源循環・技術革新等の先進国や企業で取り組むべき目標。  
 生産性向上や持続可能なまちづくりは建設業にとっても最重要課題。  
 ゴール13～15 …… 気候変動・生物多様性等の建設業も大きく関わるグローバル目標。  
 ゴール16 …… 各ゴールの底流となる包摂的社会を推進。  
 ゴール17 …… パートナーシップによる連携でゴール全体の達成を呼びかけ。

## SDGs5つの特徴

<b>普遍性</b> 先進国を含め 全ての国が行動	<b>包摂性</b> 人間の安全保障の理念を反映し、「誰一人取り残さない」	<b>参画型</b> 全てのステークホルダー が役割を	<b>統合性</b> 社会・経済・環境に 統合的に取り組む	<b>透明性</b> 定期的に フォローアップ
---------------------------------	--	-----------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------

# 当社が取り組む重要課題とSDGs

当社では、今後に取り組むべき社会課題をSDGsと関連付けながら重要課題(マテリアリティ)として絞り込み、  
下図のような「竹中工務店の目指すサステナブル社会」として公表しました。  
これらは成長戦略や事業計画に組み込み、SDGs達成のために全社的な推進を図っています。

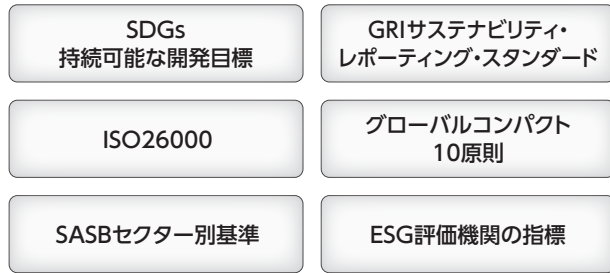


## 竹中工務店の目指すサステナブル社会

「健全な組織基盤」のもとに、「技術革新と共創」「働き方・生産性改革」と「着実な生産プロセス」を、「環境との調和」を行いながら進めることで、「持続可能な建築・まちづくり」を目指していきます。

# 社会課題とSDGs絞り込みのプロセス

取り組む重要課題(マテリアリティ)は、国際的ガイドライン等も参照した70項目を超える社会課題から、“社会”と“自社”という2つの視点(マトリクス)で、外部専門家や有識者とのワークショップやダイアログを通し、関連するSDGsを含めて絞り込みました。



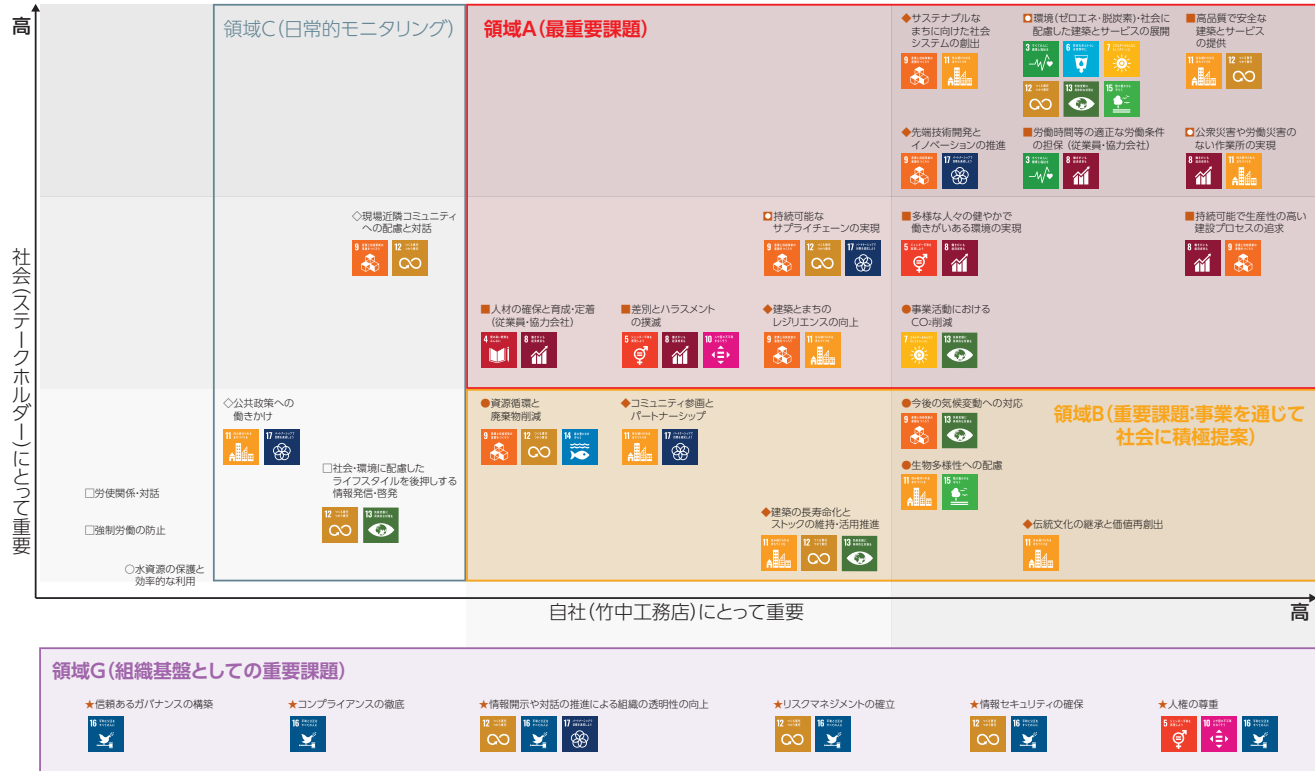
社会課題として参照した国際的ガイドライン等



関連部門・専門家とのワークショップ

## 社会課題とSDGsの絞り込みマトリクス

■ 社会関連 ● 環境関連 □ 社会・環境関連 ◆ まちづくり/イノベーション関連 ★ 組織基盤関連



自社(竹中工務店)にとって重要

高

# 重要課題(マテリアリティ)とSDGsの整理・展開

絞り込んだ重要課題とSDGsを、事業活動により6グループに分類・整理しました。これらに具体的方策とKPIを定め「サステナブル社会に向けた2020-2022年活動計画(右QRコード)」として展開しています。(具体的取り組みは次ページ以降参照)



## 重要課題(マテリアリティ)とSDGsのグループ分け



■ 社会関連 ● 環境関連 □ 社会・環境関連 ◆ まちづくり/イノベーション関連 ★ 組織基盤関連



## 取り組み事例(重要課題グループ①)

# 持続可能な建築・まちづくり



## 環境(ゼロエネ・脱炭素)・社会に配慮した建築とサービスの展開



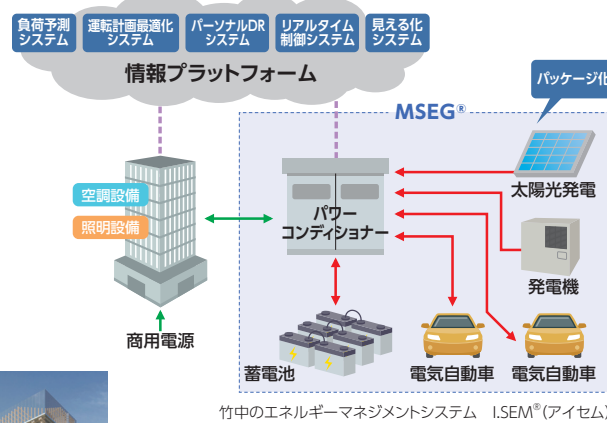
省エネルギー設計と再生可能エネルギーの活用、また、これらに貢献する技術開発により、ZEB(ゼロエネルギー・ビル)プロジェクトの普及に取り組んでいます。

また、建物の木造化・木質化を進めることで、建物のライフサイクルにわたるCO<sub>2</sub>排出を削減するとともに、木材利用による森林保全や地域経済活性化に貢献する「森林ブランドサイクル<sup>®</sup>※1」の構築に取り組んでいます。

※1 森林ブランドサイクル<sup>®</sup>: 森林資源と地域経済の持続可能な好循環



ZEB改修でASHRAE(アメリカ暖房冷凍空調学会)主催のASHRAE Technology Awardsの世界選考で最優秀賞を受賞した当社東関東支店



竹中のエネルギーマネジメントシステム I-SEM<sup>®</sup>(アイセム)



中高層木造建築のロードマップ



森林ブランドサイクル<sup>®</sup>

## 持続可能なまちに向けた社会システムの創出



当社は、地域の資源を生かし、社会課題の解決に向けた仮説をつくり、地域の方々と実証実験を行いながら検証・実装を行う「MACHInnovation<sup>®</sup>」の活動を進めています。多様なステークホルダーの方々との対話や連携を進め、まちづくりから社会システムの構築に向けて活動を広げ、持続可能なまちの実現に貢献していきます。

### ● イースト・ベイ構想

江東区の湾岸・運河エリアで未来像を掲げ、川床テラスによる木質化、歩きながら楽しめる健康緑道などのまちづくりを進めています。

### ● 雲南ソーシャルチャレンジバレー

島根県雲南市・ヤマハ発動機(株)・NPO法人ETICと「地域連携協定」を締結。新たな価値創造を目指す「企業チャレンジ」を立ち上げました。



川床プロジェクト(東京都江東区)



グリーンスローモビリティ実証事業(島根県雲南市)  
車両: ヤマハ発動機

## 伝統文化の継承と価値再創出



築90年を過ぎた聴竹居は、当社に在籍していた故・藤井厚二が建てた自邸で、昭和初期の代表的な木造モダニズム住宅です。国の重要文化財であるこの建物を地元の方々と一緒に保護・保全し、公開による建築文化を発信していることが評価され、2019年「メセナ大賞」を受賞しました。



聴竹居「紅葉を愛でる会」の開催

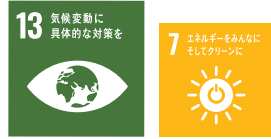


取り組み事例(重要課題グループ②)

# 環境との調和



## 気候変動への対応



### ● CO<sub>2</sub>削減長期目標

当社は、2010年に環境メッセージ「人と自然をつなぐ」と、2050年を見据えた環境コンセプトを制定、あわせて長期目標を設定して、ネット・ゼロエネルギービルの普及を目指してきました。世界でパリ協定の目標達成への動きが加速していることなどを受け、当社の長期目標を拡大し、事業活動全体を包含したCO<sub>2</sub>削減長期目標を2019年末に設定しました。更に2021年には、2050年カーボンニュートラルを目指してより高い目標に改定し、達成に向けて取り組んでいます。

### ● TCFD提言への賛同

当社は、2021年1月にTCFD(気候変動関連財務情報開示タスクフォース)の提言への賛同を表明しました。既に、気候変動に関連する事業への影響(リスクと機会)の分析を始め、事業計画に反映しています。



## 資源循環と廃棄物削減



収集運搬会社と連携し、解体工事等で発生した廃石綿を保管施設に集積してから無害化施設に搬出する仕組みを構築し、埋立処分されていたものを再利用することが可能となりました。この活動は、2018年、3R推進功労者等表彰の国土交通大臣賞を受賞しました。



国土交通大臣賞受賞

作業所では分別の徹底により、建設廃棄物のリサイクルを推進し、廃棄物発生・海洋流出ごみの削減を行っています。(株)トッパンパッケージプロダクツ深谷工場作業所ではマテリアルリサイクルを強化し、廃プラスチックは塩ビ管、ビニール包装紙等に分け、新たなリサイクルルートを開拓しました。



分別項目を協議し、細分化したBOXを設置

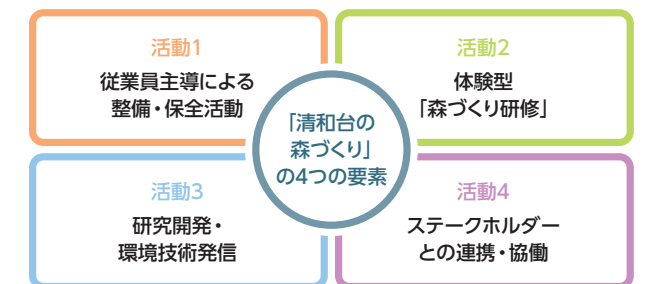
## 生物多様性への配慮



当社では、2012年に制定した「生物多様性活動指針」を具現化する取り組みとして「竹中生物多様性促進プログラム」を策定し、推進しています。その一環として、「日本一の里山」と言われる兵庫県川西市黒川地区に近接する「竹中研修所」の敷地を生かした「清和台の森づくり」活動を実践しています。



清和台の森づくり研修



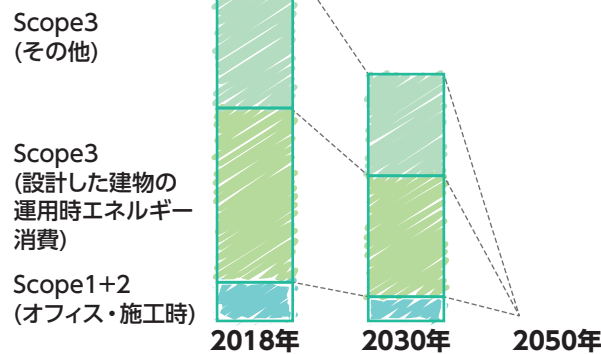
「清和台の森づくり」は4つの活動から構成されています。活動2の「森づくり研修」では、専門家や地元市民団体・企業と連携し、全国の従業員から参加を募り、「森づくり研修」を通して、広く地域や環境の課題に取り組む次世代リーダーの育成を目指しています。

### CO<sub>2</sub>削減長期目標

スコープ1~3全体のCO<sub>2</sub>排出量を削減する  
**2030年までに▲35%**  
**2050年までに▲100%**

※スコープ1~3  
 スコープ1 燃料の燃焼など、直接排出  
 スコープ2 電力・熱などの使用に伴う間接排出  
 スコープ3 設計した建物の運用時を含む、スコープ1、2以外の間接排出  
 ※オフィスの目標は竹中工務店・グループ全体の目標、  
 その他は竹中工務店単体の目標  
 ※基準年：2018年

### CO<sub>2</sub>削減イメージ



※2021年3月1日に目標値を上方修正しました。

# 生産性改革



# / 技術革新と共創



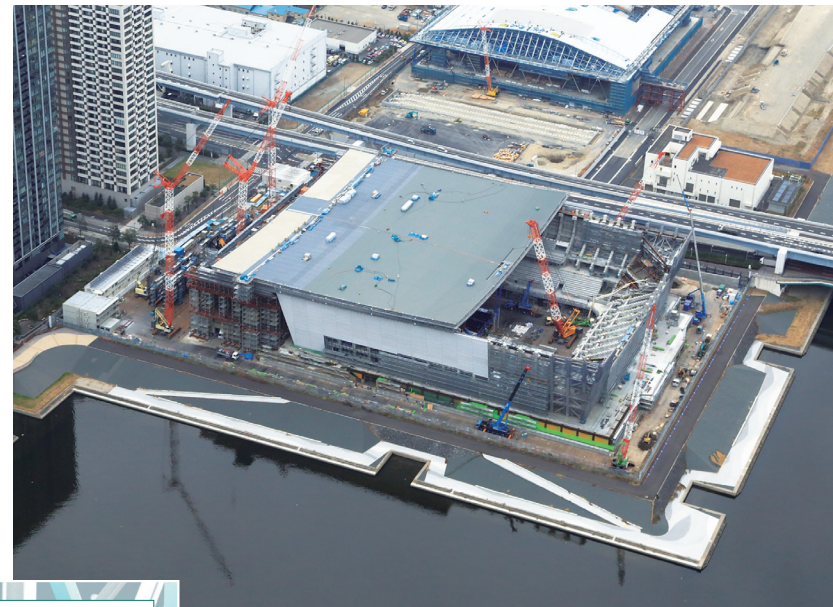
## 持続可能で生産性の高い建設プロセスの追求



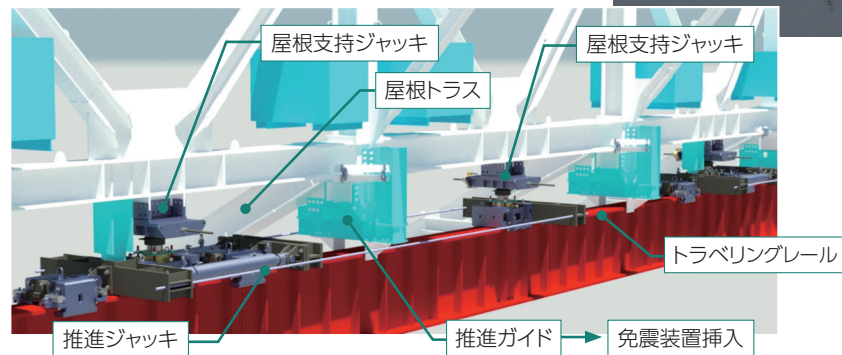
建設業の持続可能性維持のため、建設技能者減少への対策やワークライフバランス (WLB) の向上が喫緊の課題であり、川上段階から最新技術を取り込み、設計から生産に至る建設プロセス全体を変革することで、生産性向上を目指しています。

### ● 設計段階からの最新機械化施工技術の取り込み

有明アリーナでは、屋根をジャッキアップして移動しながら施工する「トラベリング工法」を初めて免震構造の屋根に採用。設計段階から免震装置と干渉しない新たな移動機構を構築し、大幅な省人化と安全性向上を実現しました。



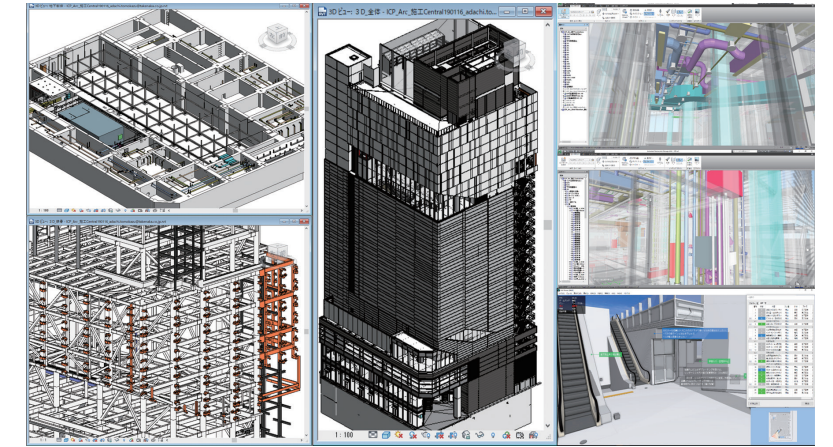
有明アリーナの屋根トラベリング時全景



免震屋根トラベリング機構

### ● 生産BIMの進化とファブリケーションの拡大

BIMは構造や設備モデルとの整合を図るだけの段階から、躯体や製作モデルとの設計段階からの連携へ、さらには鉄骨の工作など、工場加工へ連動したデジタルファブリケーションの段階へと進化しています。また、2018年からフロントローディングを促進する「プロダクト部門」を新設し、設計と生産モデルの連携強化を図っています。



詳細設計+躯体・外装一体BIMモデル

## 先端技術開発とイノベーションの推進



大規模コンベンション施設の屋根工事に於いて、ドローン撮影により溶接品質を判定する技術を開発しました。従来の管理者の熟練度とマンパワーに依存した目視確認と比べ、検査が大幅に効率化され、検査結果が正確な位置情報とともに記録できるようになりました。今後は不具合検出の自動化を実現させ、さらなる検査水準の平準化と検査の効率化を目指します。



ドローンによる検査状況



溶接部検査画面



# 働き方改革



## 多様な人々の健やかで働きがいのある環境の実現



● **ワークライフバランス(WLB)推進による多様な働き方の実現**  
 個々の多様性を尊重し、作業所4週8閉所の実践と働きがいの向上を目指した安全で働きやすい環境づくりを進めています。



緑をテーマとしたワークラウンジKOMOREBI

● **ダイバーシティの推進**  
 女性活躍の促進・職域拡大に向けて、けんせつ小町工事チームの活動推進、作業所での環境づくりを継続的に行っています。



けんせつ小町チーム[ATG54]集合写真



有識者を招いた岡山地区作業所働きがいワークショップ

# 着実な生産プロセス



## 高品質で安全な建築とサービスの提供



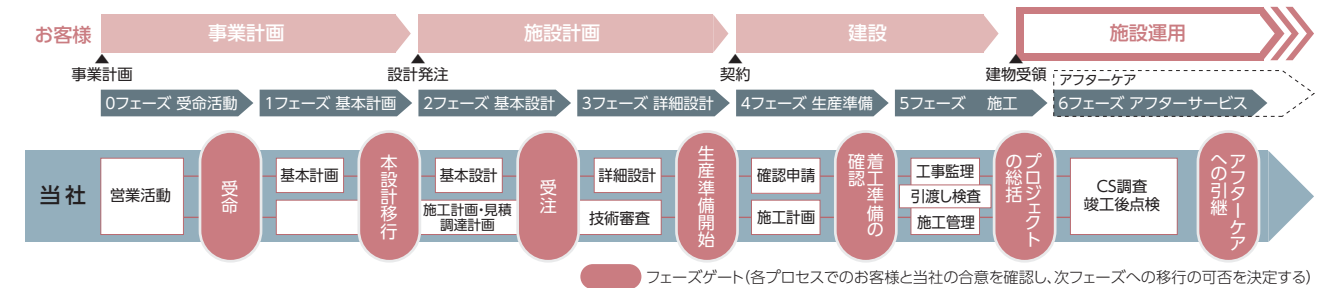
設計施工一貫のメリットを生かし、設計段階から生産部門や主要協力会社が品質確保のためのつくり込みに参画し、この業務フローを品質保証体系として標準化 (ISO9001取得) しています。また全てのプロジェクトで活用を始めているBIMにより、躯体と設備の取り合い等、関係者が同一モデルで実施する品質確認をはじめています。



外装審査会の状況とモデルによる品質確認例

No.	油断	タイトル	内容	コメント
11	14	スタンバイ 車	メンテナンス	現状：アムニ-に設置 乗降部のメンテナンス時に外部に露出する 開口部へ、保護落下防止安全地帯の設置、 安全対策もあわせて検討。
12	15	連続デッキ		オープンデッキ・連続デッキの転落が必要 ではないが、 設備配管等のメンテナンス利便性を改めて 検討すること。

### 品質保証体系図







# SDGs17のゴールと竹中工務店の具体的活動との関係

重要課題(マテリアリティ)の絞り込みの中で取り組むとした主要SDGs以外についても、それらのゴールの達成に対して、具体的活動を行っています。★:重要課題(マテリアリティ)で取り組む主要SDGs

建設業として取り組む活動の例*	当社における具体的活動の例
<b>1 貧困をなくそう</b> 	<b>①貧困をなくそう</b> 強靱でアフォーダブルな住宅提供(復興支援や途上国支援) 貧困化に結び付く違法伐採への対策 学校や研修所の建設
<b>2 飢餓をゼロに</b> 	<b>②飢餓をゼロに</b> 食糧備蓄倉庫・冷凍/冷蔵倉庫の提供 天候に左右されない食料生産施設の供給
<b>3 すべての人に健康と福祉を</b> 	<b>③すべての人に健康と福祉を</b> 建物利用者の健康維持・増進 従業員の健康、現場週休2日の達成
<b>4 質の高い教育をみんなに</b> 	<b>④質の高い教育をみんなに</b> 従業員・協会会社への学習機会提供 質の高い学校建築(木質・バリアフリー等) 奨学金制度・文化事業活動
<b>5 ジェンダー平等を実現しよう</b> 	<b>⑤ジェンダー平等を実現しよう</b> 女性やあらゆる性自認の人が働ける職場環境 性別、性自認に関わらず使いやすい建築
<b>6 安全な水とトイレを世界中に</b> 	<b>⑥安全な水とトイレを世界中に</b> 森林を含む水に関する生態系の保護 水資源の有効活用 汚水の適正処理
<b>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</b> 	<b>⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに</b> 省エネ・再エネの拡大 クリーンエネルギーの開発
<b>8 働きがいも経済成長も</b> 	<b>⑧働きがいも、経済成長も</b> ★ プロセス改革による長時間労働の是正 ICT・ロボット等による生産性向上 女性活躍の推進・WLBの向上 建設技能者キャリアアップ・処遇改善
<b>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</b> 	<b>⑨産業と技術革新の基盤をつくろう</b> ★ 災害地における復興住宅の建設 クリーンウッド法対応 「AAF」によるネパール学校建設への支援
<b>10 人や国の不平等をなくそう</b> 	<b>⑩人や国の不平等をなくそう</b> 食糧備蓄品寄贈によるフードセキュリティへの貢献
<b>11 住み続けられるまちづくりを</b> 	<b>⑪住み続けられるまちづくりを</b> ★ 「健康 <sup>®</sup> 」やウェルネス認証への取り組み グリーンインフラの推進 適正なプロジェクト工期と人員の確保 「健康経営」に向けたPDCAマネジメント実施
<b>12 つくる責任、つかう責任</b> 	<b>⑫つくる責任、つかう責任</b> ★ 技能労働者の育成・技能継承施策の展開 環境変化に応じた若年層社員教育 木造・木質学校建築の推進 「竹中育英会」や「ギャラリーエークウッド」への支援
<b>13 気候変動に具体的な対策を</b> 	<b>⑬気候変動に具体的な対策を</b> ★ ダイバーシティの推進 「人権デュー・ディリジェンス」による施策継続 ユニバーサルデザインのニーズ・満足度把握
<b>14 海の豊かさを守ろう</b> 	<b>⑭海の豊かさを守ろう</b> 「メタファーム」の適用拡大 「森林グランドサイクル <sup>®</sup> 」に基づく森林の保全 中水利用プロジェクトの促進 工所用排水適正処理の啓蒙・徹底
<b>15 陸の豊かさを守ろう</b> 	<b>⑮陸の豊かさを守ろう</b> ★ ZEB建築・エネルギーマネジメントの拡大 省エネ・再生可能エネルギー利用の拡大 バイオマス・水素エネルギー等の適用
<b>16 平和と公正をすべての人に</b> 	<b>⑯平和と公正をすべての人に</b> ★ フロントローディングによる着工後業務の削減 BIM/デジタルファブリケーションによる効率化と手戻りの削減 抜本的WLB推進による多様な働き方の実現 協会会社との入職活動や労務賃金見直し
<b>17 パートナーシップで目標を達成しよう</b> 	<b>⑰パートナーシップで目標を達成しよう</b> 途上国でのODAや支援の実施 関係者とのパートナーシップの推進

## 建設業として取り組む活動の例\*

## 当社における具体的活動の例



生産・安全性向上の技術開発  
建築/都市レジリエンス向上技術の開発  
資源利用効率向上と環境配慮技術

ロボット・AI化/新材料等の先端技術開発  
免制振技術等レジリエンス技術の開発と展開  
気候変動や資源循環関連技術の開発・実施



多様な人々が働ける環境の整備  
多様な人々が使いやすい建築の実現

「人権デュー・ディリジェンス」に基づく施策継続  
ハラスメント調査・教育啓蒙の実施  
ユニバーサルデザインのニーズ・満足度把握



気候変動の緩和と適応に向けた改善  
レジリエンスとBCP機能の強化  
緑地やグリーンインフラの拡大  
歴史的建築の保存・伝統技術の後継

まちの社会課題を解決する社会システム構築  
都市災害の対策・支援メニューの拡充  
建物の長寿命化・改修技術の強化  
「聴竹居」や「竹中大工道具館」への支援



違法伐採材の不使用、木造・木質建築の普及  
建材含有物質の有害性評価と管理  
建築の長寿命化技術の開発、廃棄物の削減  
グリーン調達、生物多様性保全

協会会社含む設計段階からの品質作り込み  
「CSR調達ガイドライン」の周知と運用  
環境を考慮したグリーン調達の継続  
設計段階からの資源循環・廃棄物削減の検討



エネルギー融通、CO<sub>2</sub>排出量のさらなる削減  
長寿命建物の普及、異常気象への対応

作業所・事業所におけるさらなるCO<sub>2</sub>削減  
気候変動に対応する新たな技術の開発・実施



水域生態系保全、海洋汚染の防止  
マイクロプラスチックの削減  
海と連生する森林資源の保護

設計段階からの資源循環・廃棄物削減の検討  
さらなる廃棄物リサイクルの推進  
マテリアルリサイクルの検討・推進



生物多様性の確保/グリーンインフラの推進  
森林資源、里山の保全

「生物多様性向上プロジェクト」の推進  
「森林グランドサイクル<sup>®</sup>」による森林の保全



児童労働等の人権問題への加担回避  
調達における公正な取引の実施  
汚職や贈賄の撲滅  
建築に関わる法令等の遵守

企業倫理等委員会での統制・管理  
「人権デュー・ディリジェンス」による課題の把握  
全社コンプライアンス体制による教育・啓蒙



途上国でのODAや支援の実施  
関係者とのパートナーシップの推進

多様な人々が交流する場や仕組みづくりの推進  
注目領域におけるパートナーシップ参画・構築  
「オープンイノベーション」の拡大

※参考文献:「建築産業にとつてのSDGs(持続可能な開発目標)-導入のためのガイドライン-」(一般財団法人 日本建築センター)

想いをかたちに 未来へつなぐ



## 株式会社 竹中工務店

本 社	大阪市中央区本町4-1-13	〒541-0053	06-6252-1201
北海道支店	札幌市中央区大通西4-1	〒060-0042	011-261-2261
東北支店	仙台市青葉区国分町3-4-33	〒980-0803	022-262-1711
東京本店	東京都江東区新砂1-1-1	〒136-0075	03-6810-5000
横浜支店	横浜市西区花咲町6-145	〒220-0022	045-321-1261
東関東支店	千葉市中央区中央港1-16-1	〒260-0024	043-242-0525
北関東支店	さいたま市大宮区桜木町1-9-6	〒330-0854	048-647-4471
名古屋支店	名古屋市中区錦2-2-13	〒460-8633	052-211-2111
大阪本店	大阪市中央区本町4-1-13	〒541-0053	06-6252-1201
京都支店	京都市中京区壬生賀陽御所町3-1	〒604-8811	075-801-2131
神戸支店	神戸市中央区磯上通7-1-8	〒651-0086	078-265-3300
四国支店	高松市西内町12-11	〒760-0022	087-851-1175
広島支店	広島市中区橋本町10-10	〒730-0015	082-212-0111
九州支店	福岡市中央区天神4-2-20	〒810-0001	092-711-1211
国際支店	東京都江東区新砂1-1-1	〒136-0075	03-6810-5000
開発事業本部	東京都江東区南砂2-5-14	〒136-0076	03-6810-5000
竹中技術研究所	千葉県印西市大塚1-5-1	〒270-1395	0476-47-1700

<https://www.takenaka.co.jp>



竹中工務店の取り組みは上記でもご確認いただけます。



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

FSC®認証紙を使用し、環境にやさしいノンVOCインキ、「水なし印刷」を採用しました。